

THANKS

(VOL. 213)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：平成27年3月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-0043
埼玉県所沢市弥生町1792-10
TEL:04-2907-1715
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「経営分析の基本⑭」・・・経営分析のまとめ

本誌では、これまで1年以上に渡って、「経営分析の基本（数字から会社の状況を把握しよう!）」というテーマを特集してきました。

今回は、本特集の最終回。

これまでのポイントをまとめてみます。

1. 「分析」とは、大きな塊を細かく分ける」こと！

「お父さん、この前の中間テストだけど、5教科500点満点で、300点しから取れなかったんだよね・・・2週間後に期末テストがあるんだけど、何とか50点アップして、350点取りたいと思っているんだ。先生も『350点あれば、お前の行きたい高校の推薦状を書いてあげる』と言ってくれている。でも、どうしたら良いか分からないんだ。どうしたら良いと思う???」

もし、皆さんが息子さんから、上記の質問を受けたらどうしますか？

「とにかく勉強時間を増やせ！」なんて言ってもダメ。

まずは、5教科の点数を確認することが大切です。

パターンAとBでは、当然、対策は異なるはずですから。

	<パターンA>	<パターンB>
国語	60点	80点
数学	60点	30点
理科	60点	60点
社会	60点	90点
英語	60点	40点
合計	300点	300点

分析とは、このように、大きな塊で漠然と見ている、何が良くて、何が悪いかわからないものを、「細かく分けて」みることです。

経営分析も然り。

ひとことで、この会社の経営状態は良い（あるいは悪い）と言っても、何が良くて、何が悪いかわかりません。

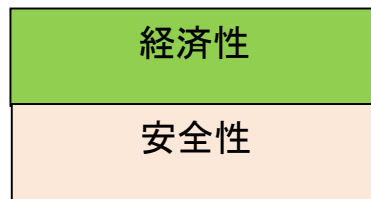
そうした漠然とした「経営」を、いろいろな切り口で分けることが、まさに「経営分析」なのです。

2. 経営の2大切り口は「経済性」と「安全性」！

それでは、どのような「切り口」で経営を分析したら良いのでしょうか？
一番大きな切り口は、「安全性」と「経済性」です。

安全性とは、「倒産する心配は無いのか？」という視点。

そして、**経済性**とは、「上手に儲けているのか？」という視点です。



3. 「経済性」は「収益性」と「効率性」に分けられる！

経済性は、「どれだけ上手に儲けているのか？」を評価する分析ですが、「上手に儲けている」ということは、「つぎ込んでいるお金に対して、たくさん儲けている」ということです。

会社の経済性を判断する指標は、以下の「総資本経常利益率」です。

$$\text{総資本経常利益率} = \frac{\text{経常利益} \quad \dots \text{儲け}}{\text{総資本} \quad \dots \text{つぎ込んでいるお金}}$$

<損益計算書>

売上高
売上原価
売上総利益
販管費
営業利益
営業外収益
営業外費用
経常利益

…いくら儲けているか？

<貸借対照表>

資産	負債・純資産
・流動資産	・流動負債
	・固定負債
・固定資産	・純資産
合計(総資本)	合計(総資本)

…いくらお金をつぎ込んでいるか？

↓

総資本経常利益率

例えば、経常利益が2億円で総資本が50億円ならば、以下のように計算します。

$$\text{総資本経常利益率} = 2 \div 50 = 4.0\%$$

総資本経常利益率が高ければ高いほど、その会社は「経済性が高い＝うまく儲けている」と判断できます。

しかしながら、逆に、もし、「経済性が低い＝うまく儲けていない」となっても、これだけでは、具体的にどうしたらいいかわかりません。

儲けが少ないのか？ あるいは、つぎ込んでいるお金が多すぎるのか？

その判断ができませんから。

だから、経済性（総資本経常利益率）を更に、以下のように分解します。

$$\begin{array}{c}
 \text{(経済性)} \\
 \text{総資本経常利益率} = \frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}} \\
 = \frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資本}} \\
 \begin{array}{cc}
 \downarrow & \downarrow \\
 \text{売上高経常利益率} & \text{総資本回転率}
 \end{array}
 \end{array}$$

(収益性) (効率性)

「売上高経常利益率」は、「収益性（＝しっかり儲けているか）」の判断指標。
「総資本回転率」は「効率性（＝お金をつぎ込み過ぎていないか）」の判断指標です。

4. 「収益性」と「効率性」ともに、更に細かく分けて行く！

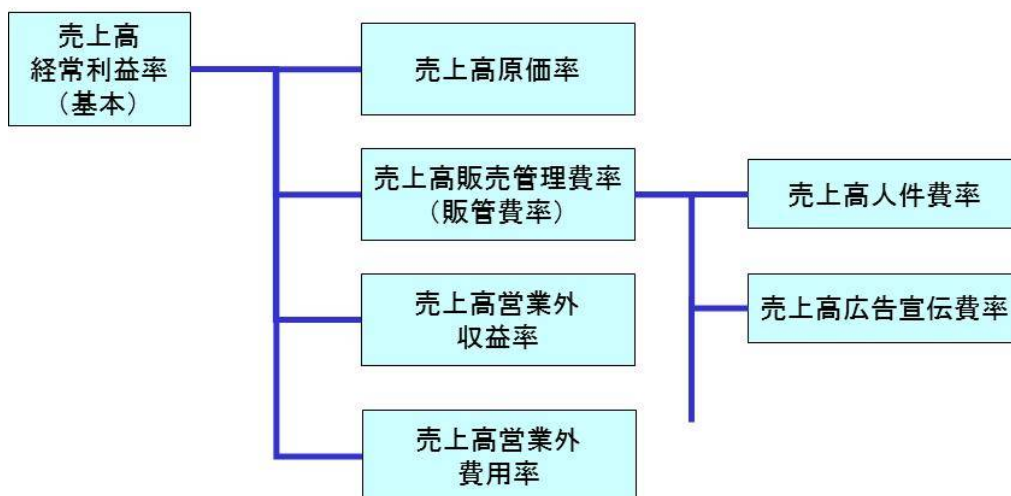
上記のように分解して、「経常利益が少ない！（＝収益性が悪い）」ということが分かってても、それだけではまだ足りません。

そもそも経常利益は、「売上原価」「販売管理費」「営業外収益」「営業外費用」といった様々な要因に基づく「結果」です。

原価が高すぎるのか？ 販管費が多すぎるのか？ 営業外が悪いのか？

その理由が分からなければ、どうしようもありません。

従って、経常利益の悪化の原因を探るためには、更に、収益性を分解する必要があります。



ちなみに、それぞれの比率の計算の仕方は、「項目÷売上高」です。

収益性も同じことです。

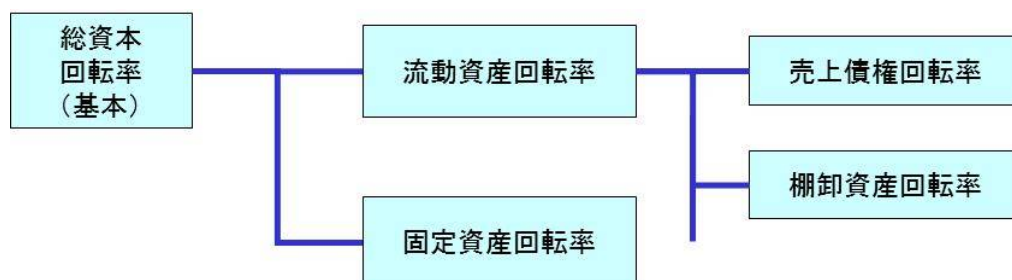
「お金をつぎ込み過ぎ！（効率性が悪い）」と言っても、つぎ込んでいるお金（＝総資本）はやはり「結果」であり、何が悪いのか分かりません。

実は、つぎ込んでいるお金（総資本）が多すぎるのは、貸借対照表の右側（負債・純資産）の問題ではありません。

すべて、左側（資産）の問題です。

資産とは、会社の財産のことですが、無駄な財産を持つから、そのためにつぎ込まなければならないお金（総資本）が必要になるのです。

従って、収益性同様、効率性も以下のように分解します。



各回転率は「**売上高**÷**項目**」で算出します。

5. 「安全性」は3つの視点で評価する！



安全性

①短期的支払い能力

⇒ 短期（1年）の支払い能力は大丈夫か？

②長期的（潜在的）支払い能力

⇒ もう少し長い目を見た場合の支払い能力は大丈夫か？

③資金調達の健全性

⇒ 資金調達のバランスは大丈夫か？

6. 安全性の「3つの視点」の「5つの指標」！

上記の3つの視点は、以下の5つの指標で評価できます。

分析		計算式	目安の比率	
			理想水準	良好水準
短期	流動比率	流動資産÷流動負債	200%以上	130%以上
	当座比率	当座資産÷流動負債	100%以上	80%以上
長期	固定比率	固定資産÷純資産	100%以下	160%以下
	固定長期適合比率	固定資産÷(純資産+固定負債)	—	100%以下
健全性	自己資本比率	純資産÷総資本	50%以上	35%以上

以上